

<p>平成 23 年 1 月 27 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>2 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

<p>・ 今月の予報</p>	
<p>【注意すべき病害虫】</p>	
<p>イチゴ：ハダニ類</p>	<p>1</p>
<p>促成ピーマン：うどんこ病</p>	<p>1</p>
<p>【その他の病害虫】</p>	
<p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，施設野菜共通</p>	
<p>2</p>	
<p>・ 病害虫ミニ情報</p>	
<p>平成 22 年のオオタバコガ及びハスモンヨトウの発生状況と被害について</p>	
<p>3</p>	
<p>・ 今月の気象予報</p>	
<p>4</p>	
<p>最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445</p> <p style="text-align: center;">予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在、被害葉率は平年より高く、発生地点率は平年よりやや高い。
気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より低いと予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
ミツバチ導入後は、薬剤のミツバチへの影響に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い~多い	鹿行地域

[予報の根拠]

1月下旬現在、発病度は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
罹病部は新たな伝染源となるため、発病葉はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成トマト	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成 キュウリ	アブラムシ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
施設野菜共通	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや少ない	1月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の気温は平年より低く，降水量は少なく，日照時間は多いと予想され，発生を助長する条件ではない。

平成 22 年のオオタバコガ及びハスモンヨトウの発生状況と被害について

昨年の夏は記録的な猛暑となり、オオタバコガ及びハスモンヨトウは平年より発生が多く、大きな被害を受けた作物がありました。そこで、これらの状況についてまとめましたので、今後の防除対策の参考にしてください。

1. 発生推移

平成 22 年のフェロモントラップによる調査結果の中から、特に誘殺が多かったオオタバコガ(龍ヶ崎市)と、ハスモンヨトウ(筑西市)のグラフを掲載しました(図)。オオタバコガの誘殺数は平年より早い7月から増加し、8月以降は平年より大幅に多く推移し、年間の総誘殺数は平年の約7倍でした。

またハスモンヨトウの誘殺数は、8月までは平年並でしたが、9月2半旬に急増して平年より大幅に多く推移し、年間の総誘殺数は平年の約3倍でした。当所では8月26日にオオタバコガで、9月16日にハスモンヨトウで病害虫発生予察注意報を発表し、防除の徹底を呼びかけました。

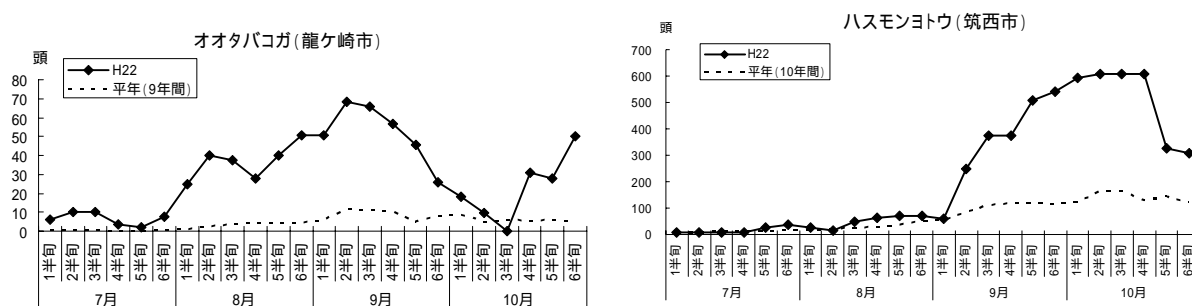


図 フェロモントラップにおけるオオタバコガ及びハスモンヨトウの誘殺状況

2. 被害状況

レタス、ハクサイ、トマト、キュウリ、イチゴ等の園芸作物の巡回調査では、一時的に被害が目立ったものもありましたが、概ね平年並の被害で推移しました。これは十分な防除対策が行われた結果と考えられます。

これに対してダイズでは、ハスモンヨトウ等のチョウ目幼虫の寄生虫数が過去 11 年中 1 位になるなど発生が多く(表)、葉がすべて食害され棒立ち状になった圃場も見られました。この原因の一つとしては、昨年のようにチョウ目幼虫が大発生した場合に、これまでどおりのカメムシ類防除を中心に選択した薬剤では十分な効果が得られず、被害が拡大したことが考えられます。今後は、圃場に発生している害虫や発生量をよく確認し、それらに効果のある薬剤を選択して防除することが重要です。

表 ダイズにおけるチョウ目幼虫の発生状況(寄生虫数/25株)

調査対象	8月			9月		
	H22	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	H22	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
ハスモンヨトウ	1.7	1.1	2	8.6	1.2	1
ハスモンヨトウを除く チョウ目幼虫 ³⁾	9.5	2.6	1	12.4	2.3	1

1) H12~21年までの平均値 2) 過去11年間におけるH22年の順位 3) 主体はオオタバコガ

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 1 月 22 日から 2 月 21 日)

気象庁 (1 月 21 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	50	40	10
降水量	関東甲信全域	50	30	20
日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

天気は，平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 1 月 22 日 (土曜日) から 1 月 28 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 50%

< 2 週目の予報 > 1 月 29 日 (土曜日) から 2 月 4 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 2 月 5 日 (土曜日) から 2 月 18 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し，適用作物，使用方法，注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には，周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず，良く洗浄しましょう。